

学校経営計画のゴール:安定した進路実績 ～ 国公立大学合格 85名(2年連続の80名突破)! ～

- ・ 福高祭対する満足度 98.0%!
- ・ 部活動加入率(新2年生) 87.0%!
- ・ ボランティアバンク(279名)、生徒会によるボランティア活動 年間 41種!
- ・ 1年生第Ⅱ類の学習指導に対する満足度 80.7%!
- ・ 文理科学科研究発表会、来場者数(市民の方々) 98名!

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
府民の期待に応える学校づくりの推進 1 「知・徳・体」の調和の取れた生徒の育成 2 「個を活かし、公に生きる」生徒の育成 3 「時を守り 場を浄め 礼を正す(森信三)」生徒の育成 4 「学力向上」と「希望進路の実現」の達成	(成果) 1 国公立大学及び難関大学の合格者数においては過去最高となる進路実績を達成することができた。 2 平成21年度「学力向上フロンティア校」支援事業に係る各種取組を展開することにより普通科生徒の進路に対する意識の高揚を図ることができた。 3 生徒指導部と学年部との連携による組織的、継続的な指導により、規範意識や挨拶等に大きな前進を遂げた。 4 ボランティアバンク登録生徒が年々増加し、ボランティアに対する機運がさらに高まっている。生徒による人命救助等、市民の方々から感謝の声が寄せられた。 5 積極的な広報活動と中学校の御理解、御協力により、生徒募集に大きな成果を残すことができた。 (課題) 1 行事や講演会等が多く、その教育効果	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 学力の向上と希望進路の実現 各教科で生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善を積極的に進め、全ての生徒の希望進路を実現することを最大の目標とする。国公立大学及び難関大学の合格者数においては過去最高となるような取組を進める。 また、新学習指導要領の実施に向けた校内体制の整備に努める。 2 普通科の活性化と文理科学科の充実 平成22年度「学力向上フロンティア校」支援事業により多様な企画を展開し、着実な学力向上と進路意識の高揚に努め、普通科全体の活性化を図る。 文理科学科の教育活動内容のさらなる充実を図り、それを生かした希望進路の実現に努める。また、文理科学科の取組を中学校や地域に積極的に広報し、その趣旨を理解した意欲的な生徒の入学に努める。 3 調和のとれた、愛校心のある生徒の育成 自他の敬愛の心と公共心や社会貢献を育み、共生社会に必要な力を育成する。 具体的には、 (1) 主体的な学習態度で、勉学に励む生徒 (2) 礼儀正しく、挨拶のできる生徒 (3) 部活動を頑張り、校歌が歌える生徒の育成を目指す。

の検証とこれらの取組の整理・統合が必要である。

2 分掌間の連携や協働体制には改善の余地があり、学校組織としての在り方を検討しなければならない。

3 確実な進路保障の観点から、普通科対象のキャリア教育に係る指導シラバスを構築する。

4 文理科学科の研究活動に関して、さらなるレベルアップを目指し、関係諸機関とのより効果的な連携を追求する。

5 本校の安定した進展につなげるために人材育成の観点から、教育活動を営む。

4 家庭・地域・関係機関との連携の強化
積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にし信頼関係を築く。また中学校や地域等へ本校の教育方針を理解してもらうための取組を一層推進する。

5 OJTの充実
教職員の資質・能力の向上及び組織としての学校の教育力を高めるという観点からOJTの一層の充実を図る。

6 安心・安全の学校づくり
全教職員が危機意識を持ち、日々の点検に努めるとともに、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	入学者選抜制度の改善を学校のさらなる進展につなげる。	・1年生普通科第Ⅱ類に設置した3クラスに、充実した学習指導を展開する。	B	・1年生第Ⅱ類を対象としたアンケートの結果、学習指導に対するプラス評価は80.7%であった。クラスに応じた適切な授業を展開することにより、高い満足度を得ることができた。
	安定した教育力を維持する観点から人材育成に努め、OJTの一層の充実を図る。	・職務を遂行する上で常にOJTを意識し、分掌内での結束を高めるとともに他分掌との連携を強化する。	B	・OJTに係るアンケートの結果、教科の方は84%、分掌は76.9%で、総計で8割を超えた。 しかし、教科と分掌間に隔たりがあり、特に分掌については次年度も継続して取り組みたい。
教務部	生徒の学力向上に資するために、授業の質の向上を図る。	・研究授業、公開授業により、授業の質の向上を図る。	C	・研究授業、公開授業への参加が多く、より良い授業を目指す意識が定着してきている。
		・「わかる授業」、「伸ばす授業」の実践を促す。	B	・12月の授業評価アンケートでは、満足度の平均が4以上の教員数は26名であった。
	基礎学力の定着や欠課時数過多生徒に対する指導により、単位の不認定をなくす。	・単位不認定者を出さない指導を行う。	D	・補充授業、補充考査に対する意識が低いと思われる生徒がおり、 次年度、担任や教科担当と連携して指導を強化したい。
		・10%、15%指導により、20%超過による単位の不認定をなくす。	A	・欠課時数過多で教務部から指導をした生徒は3名であった。必要に応じて適切な指導を行うことができた。

	授業を補うため、土曜講座を実施する。	・土曜講座への参加を促す。	B	・授業時数を補う上で非常に効果的であった。 次年度の日程設定の際に、公式戦の多い土曜日は避け、参加しやすい体勢を組みたい。
生徒指導部	安定した学校生活が進路実現につながるという観点から、規範意識の向上を図る。	・学習に集中できていない事象として、頭髪と服装に注目し、指導件数を減らす。	A	・頭髪指導は担任と連携をはかった指導ができており、前向きな改善ができています。
		・登校時の安全確保の観点から、雨天時にカッパを着用させる。	C	・カッパ着用率が80%を超え、昨年度から継続してきた結果、傘さし運転は減少した。 しかし、100%には至っておらず、また、並列走行など自転車運転のマナーには課題が残っており、次年度、徹底を図りたい。
	希望進路を達成するために、規則正しい生活習慣を確立させる。	・授業を大切にする姿勢を定着させる観点から遅刻指導生徒数を減らす。	A	・年間を通して遅刻指導を必要とする生徒は大幅に減少した。これは、2回目の遅刻に対して担任から指導を入れた成果であると思われる。 次年度も継続して協力して取り組みたい。
	「みらい」に貢献できる人材を育成する観点から、「知・徳・体」の調和の取れた人格を育成する。	・豊かな高校生活を営むため、部活動の加入率を上昇させる。	A	・新入生部活加入率が87%となった。 次年度も多く多くの生徒が部活動に取り組むことができる環境を整備したい。
・視野を拡大させるとともに生き方や適性について考える機会としてボランティア活動をさらに充実する。		B	・3回以上参加した生徒は44人、2回以上取り組んだ生徒は93名で、多くの生徒が継続してボランティア活動に取り組んだ。 次年度も人間性を育む重要な機会と位置づけ、積極的に支援したい。	
	自己の「みらい」を切り開くことができる、感性豊かな人間性を育成する。	・福高祭を充実させ、生徒に企画力や運営力を身につけさせる。	A	・アンケートの結果、福高祭の満足度は98%で、非常に高い数値となった。 生徒会を中心に運用し、充実した福高祭であった。
進路指導部	全ての生徒が学習意欲を持ち、意欲的に学習に取り組めるよう進路目	・1、2年生では総務企画部と連携して進路目標設定を促進する取組を展開し、スムーズな		・進路目標が決まらない2年生は3名、1年生では24名であった。面談を重

	標を設定する。	受験（勉強）への移行を援助する。	D	ね、各種取組の中で進路をじっくり考えさせていきたい。
	<p>定めた希望進路を実現するために、学習活動を組織的に支援し、生徒の学力伸長を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年各休業中に進学講習を実施し、将来の受験に対応できる学力と意識を高める。特に3年生ではセンター試験対策と2次試験対策を充実させ直前期の学力を向上させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の講習出席率は、約80%台であった。冬季・春季休業中はほぼ全員が参加した。国公立大学2次対策講座「にじゼミ」についても熱心に参加した。 講習を大切にしている姿勢を今後も定着させたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験5教科型得点率70%以上の割合を増加させる。 		D	<ul style="list-style-type: none"> ・得点率70%以上は33%であった。センター演習を中心に最後まで粘ったが厳しい結果となった。 年度による差が出ないように、組織としての指導力を強化したい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格生徒数を伸ばす。 		C	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の結果は厳しい結果となったが、後期で力を発揮し、延べ85名の合格となった。 2年連続の80台となり、安定した強さを発揮することができた。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田、慶応、上智、東京理科、関西、関西学院、同志社、立命館等難関私立大学への延べ合格者数を増やす。 		D	<ul style="list-style-type: none"> ・60名の合格であった。 次年度は、記述力の完成時期について共通認識し、体系的に仕上げさせたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生では推薦入試（特に、国公立推薦入試）受験生徒に対する小論文・面接指導を計画的に行い、合格率を上げる。 		D	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験を課すもの、課さないものを合わせて35%の合格率となった。 全校体制で指導し、センター試験を課さない入試については、府立高校の中で1位の成績を残すことができた。 	
保健部	<p>健やかな学校生活を送るために、生徒に自らの健康に対する意識を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほけんだより」を発行し、生徒の実態に即した、時事的な情報の提供を行なう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・20号まで発行し、月に2号の割合で発行することができた。 子宮頸がんワクチン等タイムリーな内容を提供できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・受診勧告の配布回数をあげ、要治療生徒・経過観察生徒の受診率を向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・勧告を4回実施し、昨年の同時期と比較して受診率が約1割向上し、成果が見られた。
	<p>環境問題に関心を持たせ、環境に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会（美化）の会議及び学習会を開催 		<ul style="list-style-type: none"> ・計4回、一斉委員会以外の集まりを開

	<p>対する豊かな感受性と環境に配慮した考え、行動ができる態度の育成に努める。</p>	<p>することにより、家庭や学校のゴミに関して分別と減量の必要性を認識させ、リユース、リデュース、リサイクルを理解させ積極的に行動できる態度を身に付ける。</p>	B	<p>いた。この中で、福知山市の分別方針が示されたパンフレットを用いて説明をさせ、周知に努めた。</p>
	<p>危機管理意識を持ち、安心安全な学校作りに努める。</p>	<p>・事故・災害たよりを定期的に発行し、けが防止の啓発に努める。</p>	B	<p>・長期休業月等を除き、月1号の割合で発行し、9号まで出すことができた。このたよりをもとに担任から指導を行い、意識向上のきっかけとなった。</p>
総務企画部	<p>本年度で3年目となる平成22年度「学力向上フロンティア校」支援事業計画書に基づく具体的な取組を実施し、教育活動の充実並びに関係諸機関との連携の強化に努める。</p>	<p>・普通科生徒を対象とした「みらい考」をはじめ、多くの取組を組織的・系統的に実施し、学習意欲を喚起させるとともに自らの進路を切り拓く幅広い学力を身に付けさせる。</p>	C	<p>・小論文指導（講演会・模試）や新聞活用セミナー、学力・就職適性検査、みらい考、宿泊研修等、学力向上フロンティア事業の支援を得て、各種取組を計画的に実施できた。 生徒の学力向上実感度は78%で、高い評価となった。</p>
		<p>・外部模試による学年平均偏差値を上昇させる。</p>	B	<p>・2年進研総合記述模試（11月）において、英数国3教科の平均偏差値0.7ポイントの上昇を見た。</p>
	<p>確実な進路保障の観点から、キャリア教育指導シラバスを作成し、具体的に実践する。</p>	<p>・系統的なキャリア教育指導シラバスの作成と、それに基づく具体的な取組を計画的に実施する。</p>	B	<p>・指導シラバスに沿って取組を進め、実施率は95%であった。 学年部との連携強化を図り、より生徒の実態に応じた取組を計画したい。</p>
	<p>広報活動を組織的・系統的に行い、保護者や地域に情報を発信すると共に、保・幼小中との連携を強化し生徒募集に努める。</p>	<p>・各分掌の連携を密にし、統一したわかり易い広報資料の作成を定期的に行う。また、中学校訪問等生徒募集に向け、組織的に展開する。</p>	A	<p>・概ね予定どおりの日程で広報活動が展開できた。講演会のチラシや体験セミナー・学校説明会資料の準備等も行った。</p>
人権教育部	<p>様々な人権問題について正しい理解や認識を深め人権尊重の実践的態度を養う。</p>	<p>・指導方法や教材の改善及び工夫に努める。</p>	B	<p>・年間計画にしたがって、人権学習を実施できた。2年及び3年の人権講演やエスペランサのトーク&コンサートに対する生徒の受け止め方は、極めて良好であった。</p>
	<p>各種援護制度の紹介と活用を図り、就修学の保障に努める。</p>	<p>・援護制度について紹介や説明会を通してわかりやすく説明し、援護制度の活用を図る。</p>	B	<p>・日本学生支援機構奨学金の事務手続を中心に、援護制度の活用に努めた。 今年度は、年間3回の申込機会があり、130名を超える申込があった。 経済的に困難な家庭が増える中で、援護制度の果たす役割が大きくなって</p>

				いる。
	教職員の人権意識の高揚を図り指導力の向上に努める。	・教職員研修を実施し、教職員の人権意識と指導力の向上に努める。	C	・次年度は、他分掌と共催したり、教職員の希望を取るなどして、教職員研修を充実させたい。
文理科学科推進部	3年経過した文理科学科の教育活動内容を検証し、さらなる充実を図る。	・文理科学科における研究活動のレベルアップに努め、改善を図る。	B	・本年度、「みらい学」において、京都大学との連携を深めることができた。レベルのより高い研究活動が行えるよう今後も改善を図りたい。
	文理科学科の取組や実績を保護者や中学校、地域に積極的に広める。	・保護者や地域へ向けて文理科学科の各種取組を広報し、視聴者の増加を図る。	B	・文理科学科の取組に対して、今年度は延べ98名の保護者に参加していただいた。保護者の関心が高まるなか、その期待に応えるべく努力を継続したい。
図書視聴覚部	生徒の主体的学習態度を培うために、読書の重要性を認識させ、読書に親しませる。	・読書活動を推進するために、図書館の利用を促すとともに読書に対する意欲の喚起を図る。	B	・図書委員会の開催や図書館だよりの発行を通じ、読書に対する啓発活動を今後も継続し、学力の基礎となる読解力の養成を図りたい。
	校内における教育活動を外部に向けて発信するための広報活動の充実を図り、魅力ある姿を保護者中学生等に伝える。	・広報活動の充実のため具体的方策として以下の取組の充実を図る。 [ホームページの更新回数]	B	・次年度は、行事毎の更新を心掛け、最新の内容をアップすることによりタイムリーな情報提供を心掛けたい。
		[お知らせメールの発送回数]	D	・1学期前半にサーバーのトラブルが発生したが、その後も十分な発信ができなかった。 次年度は、システムの検証も含め、家庭とのパイプ役として十分に活用したい。
	[福高だよりの発行回数]	D	・年間スケジュールに従って計画的に発行し、広報活動の柱の1つとして、中学生から高い評価を受け、生徒募集において大きな力を発揮した。	
第1学年部	1年生が基本的な生活習慣を身につけ、自主的・自立的な高校生活を送るよう指導する。	・挨拶やマナー、時間厳守、掃除の徹底についての指導を繰り返し行う。	A	・年間遅刻指導回数は2回であっが、一部の生徒のマナーや服装、行動等の面では、2年生に向けて引き続き指導していきたい。

	<p>授業を大切にする姿勢や家庭学習の習慣の定着を図り、基礎学力の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習指導や日々の演習の実施を通じて学習習慣と基礎学力の定着を図る。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の演習の年間平均提出率は91.6%であった。 次年度、学習意欲や学力の向上につながるよう、内容の充実に努めたい。
	<p>学級活動や部・課外活動などに積極的に取り組むことで、学年全体が集団として成長するよう支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や行事、部活動やボランティア活動への積極的な参加を促す。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア参加人数は、延べ81人であった。多くの生徒がボランティアバンクに登録し、積極的に参加した。
	<p>自己の生き方を考える機会を提供し、進路に対する意識を喚起する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学期に2回以上の面談を行い、みらい学やみらい考を活用して進路意識を喚起する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス5回程度の面談を実施し、生徒の学習や進路の意識向上に努めた。
第2学年部	<p>基本的な生活習慣を身につけさせ、社会人としての資質を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行に向けて、HRや学年集会を通して、時間を守る指導、安易に遅刻・早退をさせない指導をする。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行においては、日程どおりの行動ができ、朝の遅刻による指導はなかった。
		<ul style="list-style-type: none"> 面談や家庭訪問を通して、生徒に積極的に声をかけたり、保護者や保健部と連携をとり、生徒が安心して学習や部活動に取り組めるよう援助する。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の三者面談や科目選択に関する面談を行った。 科目選択については、進学後や受験科目も見据えた選択ができるよう、教科担当者とも相談しながら面談を進めた。
	<p>学力の伸長と進路希望の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現に向け、日々の積み重ねを大切にさせるとともに、計画的な学習に取り組ませる。 	<p>D</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体調を崩して欠席する生徒もおり、目標を達することはできなかった。 日々の積み重ねや模試を利用した復習の大切さを繰り返し指導する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> より具体的な進路目標(学部・学科・コース)を明確にさせ、オープンキャンパス等にも積極的に参加させる。 	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路が定まっていない生徒は5～6名、進学希望生徒のうち、学部、学科に係る明確な目標を設定していない生徒は20～30名であった。引き続き進路に関する各種取組を通して、自分と向き合わせていきたい。 夏季休業を利用して多くの生徒がオープンキャンパスに参加をした。
第3学年部	<p>希望進路の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みまでに、すべての生徒の進路先も含めた具体的な進路希望を決定させる。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ全員が、希望進路を決定できた。
		<ul style="list-style-type: none"> 各分掌・各教科と連携し、生徒1人1人に応 		<ul style="list-style-type: none"> 希望進路の確認や、志望校の確定に向

		じた希望進路を実現するために、面談を実施する。	A	け、年間を通して十分な面談を行った。
国語科	意欲を持って学習に取り組む態度を育て、希望進路の実現	・授業に加え、日々の演習を始めとする課題の配布や小テストの実施を積極的に行い、学習内容の定着を図る。また、模擬試験の事後指導をきめ細やかに行うことで実践的な学力の伸長を図る。	C	・日々の演習・漢字テスト・古文単語テストを軸に、各クラスの到達度、進路目標に合わせて課題を配布したり小テストを実施した。模擬試験等の結果をさらに分析するなどし、次年度も有効な指導を行いたい。
		・漢字能力検定の受検を奨励する。	D	・低学年次から啓発に努め、2級合格者を増やしたい。
	学習意欲を高める授業の改善に努める。	・定期的な教科会議や校内研究授業を積極的に実施し、指導力の向上を図る。	A	・教科会議（週1回）の中で、各学年担当者の打ち合わせと情報交換を行い、指導内容の向上に努めた。 6月には重要教材である『山月記』の教材研究、指導方法の交流等を行った。
地歴公民科	生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善を積極的に進め、進路希望実現に向けてサポートする。	・地歴公民科教員による公開授業・研究授業を積極的に実施する	B	・指導教諭及び新規採用者を中心に公開授業を数多く実施した。今後も継続して行っており、スキル向上に努めたい。
		・日々の演習や各種添削指導等個に応じた指導を徹底し、センター試験地歴公民科目受験者の学力アップを図る。	C	・今年度、3年生の提出率は各科目平均して70～79%であった。 次年度は、さらに提出率を向上させたい。
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を育成する。	・授業を大切にする学習を押し進め、家庭学習指導や日々の演習等を通じて学習習慣と基礎学力の定着を図る。	B	・日々の演習は1年生で特に高い提出率を示した。 しかし、特定の生徒に未提出が見られ、次年度、課題内容や指導方法に工夫を凝らしたい。
	多様な進路希望に対応できる学力を養成する。	・1年生：効果的な学習方法を指導し、基礎学力を徹底させる。 ・2年生：小テストや課題を通じて学力の点検補充を行い、基礎学力の完成を図る。	B A	・週末課題やノート点検等によって、学力や学習方法の点検・指導に取り組めた。 ・小テストや課題だけでなく、学力補充の補習を行うなど、基礎学力の充実に取り組んだ。

		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生：センター試験対策演習やにじゼミ等によって、進路実現に必要な学力を充実させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・センター試験対策演習やにじゼミによって、計画的に入試突破に向けた学力養成を行った。
	学習意欲を高める指導の工夫改善を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活発で効果的な教科指導が行えるように定期的な教科会議や校内研修によって教科内の意思統一を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会議において、指導法の確認や意見交流を活発に行った。習熟度別授業の進め方や授業の改善、校内数学コンテストの実施に向けて研修した。
理科	自然科学に興味・関心を持たせ、基礎・基本を重視した「わかる授業」を展開する教材や指導方法の研究に絶えず努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・演示・生徒実験、観察等実物に触れる機会を積極的に作る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目において、実物を重視した様々な実験・実習を実施し、興味・関心高めるとともに理解を促す工夫に努めた。(実施回数18回)
	日々の演習や課題、長期休業中の講習を通して「問題解答力」の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、類、類型の実態に応じ、年間を通して計画的に演習課題を提示する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の演習や夏季休業中の課題、講習(特に3年の進学対策)を行った。(年間提示数85種)
	小教科の枠を超えて、指導方法や指導内容の研究・交流を積極的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業と模擬試験分析を計画的に実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業は年6回実施した。模試(2年)の結果を分析し、結果を今後の学習活動に生かす。次年度、さらに科目の枠を超えた授業交流に努めたい。
保健体育科	基本技能を習得し、体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種目において基本的な技能の習得とともに、体づくり運動に取り組むことで、体力の向上を図る。 	D	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテストの結果、2、3年男子においては良好な結果(A又はB判定)であったが、1年と2、3年女子の結果が思わしくなく、D、Eの生徒が9%以上となった。2・3学期に持久走、トレーニングの授業を実施し、体力の向上を図った。次年度も、体力の向上に努めたい。
	生涯を通じて、運動を継続的に実践できる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次の選択制体育において、計画的・継続的に運動を実践する姿勢を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・講座によりばらつきがあるが概ね良好な授業評価を得た。1・2年次から、さらに系統立った指導を継続したい。
	健康・安全に関する事柄に興味・関心を持ち、科学的に思考・判断し、総合的にとらえる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健の課題学習において、生徒の興味・関心を引き出し、科学的に思考・判断する姿勢を育てる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生とともに発表まで意欲的に取り組み、科学的に思考し判断する姿勢を養うことができた。生徒の授業に対する満足度は、講座

				によって差があるが、概ね良好な授業評価であった。
	運動部活動の活性化を図る。	・ 日常的な指導（勧誘）により、加入率を上昇させる。	C	・ 男子加入率は65%と良好であったが、女子が28%となり、全体では45.7%であった。
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深めることにより、豊かな情操を養う。	・ 生徒の表現能力高めるために校内・校外における発表展示を行なう。 [音楽]	B	・ 美術・書道作品展で2日間にわたって発表した。この取組に向け、授業時間を計画的に使うことができた。授業公開についても計画的に実施できた。
		[美術]	B	・ 年間を通して、4回の展示を行った。次年度も、計画的に校内展示を行いたい。
		[書道]	C	・ 年間を通して、3回の展示を行った。次年度も、計画的に校内展示を行いたい。
英語科	多様な進路希望に対応できる基礎的な学力を養成する。	・ 家庭学習指導や日々の演習等の課題を通じて、学習習慣の定着と基礎学力の完成を図る。	C	・ 次年度、基礎事項の全体の定着をより徹底して論理的な読解力養成を心掛けるとともにリスニング力向上のために系統的指導を取り入れる必要がある。
	実践的な言語能力の獲得に励む生徒を育成する。	・ 英語技能検定の受検を奨励し、合格に向けた助言や支援を行う。	D	・ 次年度向け、定期試験等の学校行事や他の検定の実施時期を考慮した日程を設定するとともに受検支援体制をさらに充実させたい。
家庭科	体験、実習、検定などを通して基礎基本的な知識、技術の定着・向上を図る。	・ フードデザインにおいて食物調理技術検定の受検を促し、知識・技術の定着及び向上を図る。	C	・ 検定は6月に実施。合格率は85%で、満点合格は6名であった。
次年度への改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJTの観点を継承し、より強固な組織を構築する。 ・ 1年生第Ⅱ類の学習指導をより充実させ、類・類型が廃止される新教育システムに円滑につなげていく。 ・ 補充授業・補充考査の対象となっている生徒の取組姿勢について、多面的に指導し、進路実現に向けて歩み出す心構えを自覚させる。 ・ 登下校時のカップ着用率の向上に続き、並列進行について継続的に指導し、地域の一員であるという自覚を育む。 ・ 国公立大学推薦・AO入試の指導に対する共通認識を持ち、指導方法の蓄積も推し進めながら、組織として指導力の向上を図る。 ・ 文理科学科みらい学Ⅱにおけるグループ研究を成功させ、研究のさらなる質的向上を目指す。 			